

〈看護学科〉

基礎看護学

教授：芳賀佐和子 基礎看護学
准教授：菊池麻由美 基礎看護学
講師：羽入千悦子 基礎看護学
講師：佐竹 澄子 基礎看護学

教育・研究概要

基礎看護学領域では看護学科学生の定員増を見据えて、教育内容および方法の検討を行った。特に、看護の技術修得のための授業、演習、実習の方法を工夫し、少人数での学習を可能にするためのプログラム開発と実習病棟との交渉をはじめた。

また、2010年度までに引き続き、フィジカルアセスメントについての教授方法の検討および看護援助、看護歴史、看護診断に関する研究を行った。これまでも基礎看護学領域で力を入れてきたフィジカルアセスメント教育についての研究では、看護学生の初期看護学実習におけるフィジカルアセスメント技術の修得状況を質的に明らかにし、実習および事前の講義や演習等の教授方法との関連を検討した。看護援助についての研究では、排泄および安楽、ポジショニングの技術に焦点を当てた準実験的デザインの研究を行っている。また、明治期における日本の看護についての歴史研究を継続して行った。療養介護病棟でのフィールドワークに基づく運動機能障害患者への援助行為についての記述的研究および新たな看護診断ラベルの同定に向けた看護診断に関する研究にも続けて取り組んでいる。

「点検・評価」

看護実践能力の育成に向けて精力的に教育方法の検討を行った。特に、フィジカルアセスメント教育については研究結果からも一定程度の効果が確認できている。今後更に、日常生活の援助に関連した技術の習得にむけて、リアリティのある教授方法の工夫やeラーニングを用いた学習支援などを工夫していきたい。

研究活動については、領域構成員がそれぞれに研究テーマをもって継続して研究を行っている。これまでの研究成果は各学会で発表してきた。今後、これらを学術論文にまとめることが必要である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 佐竹澄子¹⁾、大久保暢子¹⁾、牛山杏子¹⁾(¹聖路加看護大学)、鈴木恵理²⁾、小板橋喜久代²⁾(²群馬大学)、看護における「ポジショニング」の定義の検討(第2報) 看護実践報告の文献検討の結果から、日看技会誌 2011; 10(2): 47-56.
- 2) 大久保暢子¹⁾、牛山杏子¹⁾(¹聖路加看護大学)、鈴木恵理²⁾、佐竹澄子¹⁾、小板橋喜久代²⁾(²群馬大学)、看護における「ポジショニング」の定義について 文献検討の結果から、日看技会誌 2011; 10(1): 121-30.
- 3) 伊東美奈子¹⁾、大久保暢子¹⁾、佐竹澄子¹⁾、佐居由美¹⁾、大橋久美子¹⁾、蜂ヶ崎令子¹⁾、菱沼典子¹⁾(¹聖路加看護大学)、看護学導入時期の学習上の困難の軽減をはかった教材の有用性、聖路加看会誌 2011; 15(2): 9-15.

III. 学会発表

- 1) 羽入千悦子、芳賀佐和子、平成21年度カリキュラム改訂に伴うフィジカルアセスメント教育の現状と課題－ワークショップ参加者へのアンケートから－、日本看護技術学会第10回学術集会、東京、10月、[日看技会講抄 2011; 10回: 208]
- 2) 菊池麻由美、筋ジストロフィー病棟のベテラン看護師の実践の形、東京女子医科大学看護学会第7回学術集会、東京、12月、[東京女子医科大学看護学会第7回学術集会抄録集 2011; 51]
- 3) 青木紀子、便器を挿入し上体挙上角度を変化させた時の自律神経活動の比較、日本看護技術学会第10回学術集会、東京、10月。

IV. 著書

- 1) 佐竹澄子、第2編：脳・神経疾患患者の看護 第1章：看護の基本 II. 情報収集とアセスメント、黒岩義之(横浜市立大学)、宗村美江子(虎の門病院)編、新体系看護学全書：成人看護学6：脳・神経、東京：メヂカルフレンド社、2012.

看護管理学

客員教授：住吉 蝶子 看護管理学

教授：永野みどり 看護管理学

教育・研究概要

前期は、専任教員不在であった。学部教育として、3年生の必修科目「看護マネジメント」は学科の教務委員長が調整し、住吉蝶子客員教授ならびに非常勤講師が担当した。修士課程の教育では、「看護管理学特論Ⅰ（看護管理学概論）・Ⅱ（看護組織論）」は住吉客員教授が担当し、「看護管理学演習Ⅲ（看護政策アセスメント）」は修士課程の教務委員長が調整し複数名の非常勤講師等が担当した。研究指導は主に地域連携保健学分野教授で看護学研究科長の櫻井尚子教授が担当した。

後期は、10月1日付で専任教授として永野みどり、修士課程研究指導担当の非常勤講師として菅田勝也東京大学教授が着任した。学部教育においては、2年生の必修科目「看護情報管理学」を永野が担当した。修士課程では、シラバスでは前期に予定されていた「看護管理学特論Ⅲ（看護情報管理学概論）」を含め「看護管理学演習Ⅰ（人材資源活用論）」を後期に永野が担当した。「看護管理学演習Ⅱ（看護の質向上評価システム）」は住吉客員教授が担当した。修士課程1年制の研究指導は主に菅田教授、2年生の研究指導は永野が担当した。1年生は2名中2名進級し、2年生は2名中1名のみ修了することができた。

研究に関しては、平成21年度からの科学研究費補助金を得て実施していた研究課題「病院における褥瘡対策体制の質評価指標の開発（課題番号21592685）」の調査結果の分析と報告書の作成を行った。その一部を3月に開催された日本看護評価学会第2回学術集会で、「褥瘡対策の質評価指標の検討ACOVEQIによるハイリスク加算体制の評価」というタイトルで口演発表した。また、ストーマ外来におけるニーズの研究もデータ分析を行い、学会報告の準備をした。

「点検・評価」

前期には専任教員が不在であり、学部および研究科の教務主任ならびに学科長や研究科長が調整することによって、看護管理学に関する科目や研究指導などの教育活動を継続できていた。後期には専任教員が着任したので、前期に予定されていた科目も含

めてシラバスの上で年間に実施すべき科目について予定通りの教育活動が実施できた。しかしながら、学生ならびに大学院生のレディネスやニーズの把握ができないままに教育活動を実施せざるを得ず、効果的な教育方法を考慮することができなかった。

研究活動としては、調査結果の分析ならびに学会報告はできたが、論文の作成はできなかった。

研究業績

Ⅲ. 学会発表

- 1) 山田みよ子（北部看護学校）、手島 恵¹⁾、永野みどり¹⁾（¹千葉大学）。病院敷地内禁煙の取り組み－看護職員への禁煙支援－。第6回日本禁煙科学学会学術総会。南風原町、11月。[第6回日本禁煙科学学会学術総会抄録集 2011：68]
- 2) 永野みどり¹⁾、緒方泰子¹⁾、手島 恵¹⁾（¹千葉大学）、徳永恵子（宮城大学）、石田陽子（山形大学）。病院における褥瘡対策体制の問題点。第20回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会。金沢、5月。[日創傷オストミー失禁管理学会誌 2011：15(2)：194]
- 3) 永野みどり¹⁾、徳永恵子（宮城大学）、石田陽子（山形大学）、緒方泰子¹⁾、手島 恵¹⁾（¹千葉大学）。皮膚・排泄ケア認定看護師が勤務する病院における褥瘡対策体制の現状。第13回日本褥瘡学会学術集会。福岡、8月。[褥瘡会誌 2011：13(3)：463]
- 4) 永野みどり、緒方泰子¹⁾、徳永恵子（宮城大学）、手島 恵¹⁾（¹千葉大学）。褥瘡対策の質評価指標の検討 ACOVEQIによるハイリスク加算体制の評価。第2回日本看護評価学会学術集会。東京、3月。[日本看護評価学会学術集会抄録集 2012：38]
- 5) 渡辺昌子（浜松市）、手島 恵¹⁾、永野みどり¹⁾（¹千葉大学）。新たに統合した看護組織の基盤作り。第15回日本看護管理学会年次大会。東京、8月。[第15回日本看護管理学会年次大会講演抄録集 2011：80]
- 6) 渡辺八重子（亀田総合病院）、手島 恵¹⁾、永野みどり¹⁾（¹千葉大学）。患者中心のチーム医療の実現－産婦人科病棟へのTeam STEPPS導入とその成果－。第15回日本看護管理学会年次大会。東京、8月。[第15回日本看護管理学会年次大会 2011：130]
- 7) Kuroda M (Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital), Teshima M¹⁾, Nagano M¹⁾（¹Chiba University）。Effect of introducing the work-life balance in a metropolitan hospital. ICN Conference and CNR 2011. Malta, May. [ICN Conference 2011：185]

Ⅳ. 著 書

- 1) 永野みどり。第2章：人材の育成と活用 論点2：効率的な人材の活用 A. 人材の活用と組織デザイン。

井部俊子（聖路加看護大学），中西睦子（国際医療福祉大学）監修，手島 恵（千葉大学）編，看護管理学習テキスト 第4巻：看護における人的資源活用論，第2版，東京：日本看護協会出版会，2012. p.75-86.

成人看護学

教授：藤野 彰子	がん看護学，緩和ケア
教授：高島 尚美	周手術期看護学，クリティカルケア
講師：村田 洋章	クリティカルケア
講師：瀬山 留加	がん看護学，家族看護

教育・研究概要

I. 終末期がん看護におけるケアリングタッチの考察

藤野は緩和ケア病棟に勤務する看護師 11 名のインタビューを通し，ケアリングタッチの重要性を明らかにしようとしているが，本年度はすべてのデータの分析が終了し，論文を作成している過程である。

II. 集中治療を受ける患者のコンフォートケアモデルの開発

高島は胃癌周術期患者の心理過程と関連要因に関する調査の論文化をしつつ，集中治療室入室中の患者のストレスの経験に関する調査のための日本語版尺度作成等の準備を行った。現在はデータを収集中である。

III. 人工呼吸器装着患者への看護支援プログラム開発

村田は人工呼吸器装着中の患者の体験を明示しつつ，プログラム構築するためにデータ分析を進めている段階にある。また，せん妄患者を対象とした研究にも着手し，現在はデータ収集中である。

IV. 治療を受けるがん患者，家族のケアモデルの開発

瀬山は化学療法に伴う末梢神経障害を抱える患者の体験，治療を受けている高齢がん患者の体験を明らかにした。現在，家族を含めたケアモデルの構築のため，さらなるデータ収集，分析の過程にある。

「点検・評価」

成人看護学実習に求められるリスクマネジメント教育のあり方の検討から，看護技術の内容を検討し，点滴の管理，救急蘇生，心電図等を学内演習に取り入れ，また，手術室，ICU，血液浄化部等の臨地実習をも導入することで，学生の看護技術の見学や体験が増加した。これは学生にとって意義があり本年度も継続している。看護学実習において，学生

に看護技術をできるだけ多く体験させるよう、教員は努力し、徐々に成果は上がっている。

成人急性期分野の教授が2名から1名となり、新しい教員の候補者がいないため欠員のままとなり、この分野の教育と研究において、教員の負担が増加したが内容的には充実したものであった。成人慢性期では講師の退職に伴い、新教員を採用したが教育内容は継続性を持ち一定の水準を維持できた。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 武居明美¹⁾, 瀬山留加, 石田順子 (高崎健康福祉大学), 神田清子¹⁾ (群馬大学). Oxaliplatin による末梢神経障害を体験したがん患者の生活における困難とその対処. Kitakanto Med J 2011; 61(2): 145-52.
- 2) 原 祥子¹⁾, 武居明美¹⁾, 瀬山留加, 高井ゆかり¹⁾, 角田明美¹⁾, 神田清子¹⁾ (群馬大学). 治療を受ける高齢がん患者の語りに見る希望. Kitakanto Med J 2011; 61(4): 509-14.
- 3) 北田陽子¹⁾, 瀬山留加, 高井ゆかり¹⁾, 武居明美¹⁾, 神田清子¹⁾ (群馬大学). 一般病棟に勤務する看護師の終末期がん患者の家族支援内容. Kitakanto Med J 2011; 61(4): 489-8.

II. 総 説

- 1) 高島尚美. 【新人を迎えるために今準備すること】基礎教育と現任教育におけるはざまの現状と課題 求めているレベル・距離感. 重症集中ケア 2012; 10(6): 17-21.
- 2) 高島尚美. 【私はこうして学生と向き合ってきたー日々出会うさまざまな悩み】学内講義における教育・学習編 学生がほとんど経験したことのない, しかし重要なこと(倫理観)を講義で教授したいとき. 看教 2012; 53(2): 90-4.
- 3) 瀬山留加. 【私はこうして学生と向き合ってきたー日々出会うさまざまな悩み】臨地実習における教育・学習編 コミュニケーションの意味を理解させスキルを身につけさせること. 看教 2012; 53(2): 100-2.
- 4) 高島尚美. 【新人を迎えるために今準備すること】今, 新卒看護師はどんな教育を受けているか 新カリキュラムについて知る. 重症集中ケア 2012; 10(6): 12-6.

III. 学会発表

- 1) 野中麻衣子, 瀬山留加, 渡邊知映 (昭和大学), 村田洋章, 高島尚美. 術後胃がん患者の活動を広げる力の検討. 第26回日本がん看護学会学術集会. 松江, 2月.

- 2) 若澤弥生, 野中麻衣子, 村田博章, 藤野彰子. 臨床経験2～3年目の大卒看護師が考える在学中における成人看護学実習での重要な学び. 第31回日本看護科学学会学術集会. 高知, 12月.
- 3) 務台理恵子, 藤野彰子. 在宅療養を決定した終末期がん患者の思い・第26回日本がん看護学会学術集会. 松江, 2月. [日がん看会誌 2012; 26(特別号): 118.]
- 4) 渡邊知映 (昭和大学), 村田洋章, 野中麻衣子, 高島尚美. 胃切除術を受けた患者の術後2カ月までの身体活動量の実態と関連要因の検討. 第31回日本看護科学学会学術集会. 高知, 12月.
- 5) 村田洋章, 渡邊知映 (昭和大学), 野中麻衣子, 高島尚美. 胃切除術を受けた患者の術前から退院までの身体活動状況に関する研究. 第31回日本看護科学学会学術集会. 高知, 12月.
- 6) 高島尚美, 村田洋章, 渡邊知映 (昭和大学), 野中麻衣子. 胃がん胃切除術後の心理的要因の変動(HADS)と生活状況・QOLとの関連について. 第76回消化器心身医学研究会学術集会. 東京, 5月.
- 7) 高島尚美, 村田洋章, 渡邊知映, 野中麻衣子, 中田浩二, 三森教雄, 柏木秀幸. 胃癌胃切除術後周術期の心理的要因の変動と生活状況・QOLの関連について. 第76回消化器心身医学研究会学術集会. 東京, 5月.
- 8) 高島尚美, 村田洋章, 渡邊知映, 野中麻衣子, 小曾根基裕, 中田浩二, 三森教雄, 柏木秀幸. 胃癌胃切除術後の心的要因(HADS)の変動とQOLの関連. 第41回胃外科・術後障害研究会. 大阪, 10月. [胃外科・術後障害研究会プログラム・抄録集 2011; 41st: 57]
- 9) 小松由佳, 高島尚美. 心臓血管外科術後早期における患者の日常生活行動の再獲得状況と影響因子. 第39回日本集中治療医学会学術集会. 千葉, 2月. [日集中医誌 2012; 19(Suppl.): 403]
- 10) 瀬山留加, 武居明美¹⁾, 神田清子¹⁾ (群馬大学). 語りにみる進行肺がん患者の家族成員のWell-being回復過程の検討. 第26回日本がん看護学会学術集会. 松江, 2月. [日がん看会誌 2012; 26(特別号): 330]
- 11) 加藤咲子 (信州大学), 瀬山留加, 神田清子 (群馬大学). 進行がん患者の意思決定を支える看護師の困難に関する研究. 第26回日本がん看護学会学術集会. 松江, 2月. [日がん看会誌 2012; 26(特別号): 241]
- 12) 武居明美¹⁾, 瀬山留加, 神田清子¹⁾ (群馬大学). 化学療法に伴う慢性的末梢神経障害を抱えるがん患者の自律への体験プロセス. 日本看護研究学会第37回学術集会. 横浜, 8月. [日看研会誌 2011; 34(3): 208]
- 13) 瀬山留加, 武居明美¹⁾, 神田清子¹⁾ (群馬大学). 進行がん患者の家族が抱える苦しみの検討. 日本看護研究学会第37回学術集会. 横浜, 8月. 日本看護研

究学会第37回学術集会、横浜、8月。[日看研会誌 2011; 34(3): 177]

- 14) 瀬山留加, 津久井利恵¹⁾, 小笠原一夫¹⁾(¹緩和ケア診療所いっば), 武居明美²⁾, 神田清子²⁾(²群馬大学)。終末期がん在宅療養者と家族の希望を支える訪問看護師の看護実践プロセス。第16回日本緩和医療学会学術大会。札幌、7月。[日本緩和医療学会学術大会プログラム・収録集 2011; 16回: 515]
- 15) 高平裕美¹⁾, 二渡玉江¹⁾, 神田清子¹⁾, 瀬山留加, 井上エリ子¹⁾(¹群馬大学)。痛みの出現に恐怖感を持つ子宮がん患者への看護支援 IASMの理論を用いた痛みに対する症状マネジメント。第8回群馬がん看護フォーラム。前橋、5月。[Kitakanto Med J 2011; 61(3): 439-40]
- 16) 原 祥子¹⁾, 角田明美¹⁾, 武居明美¹⁾, 神田清子¹⁾(¹群馬大学)。治療を受ける高齢がん患者の語りにも希望に関する研究。第8回群馬がん看護フォーラム。前橋、5月。[Kitakanto Med J 2011; 61(3): 440]
- 17) 本多昌子¹⁾, 神田清子¹⁾, 二渡玉江¹⁾(¹群馬大学), 細川 舞²⁾, 大井寿美江²⁾(²西群馬病院), 瀬山留加。End of lifeを生きる肺がん患者への看護支援 Abraham H. Maslowのニード論を用いて。第8回群馬がん看護フォーラム。前橋、5月。[Kitakanto Med J 2011; 61(3): 441]

IV. 著 書

- 1) 高島尚美。腎・泌尿器疾患 17. 腎・尿路結石(腎結石, 尿管結石, 膀胱結石)患者ケア, 21. 尿路感染症(腎盂腎炎, 膀胱炎)患者ケア。佐藤千史¹⁾, 井上智子¹⁾(¹東京医科歯科大学)編。人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ3: 代謝疾患, 内分泌疾患, 血液・造血器疾患, 腎・泌尿器疾患。東京: 医学書院, 2011. p.168, 199
- 2) 高島尚美。第2章: 健康状態の経過に基づく看護 B. 急性期における看護。系統看護学講座: 専門分野 I: 基礎看護学4: 臨床看護総論。第5版。東京: 医学書院, 2012. p.70-85.

老 年 看 護 学

教 授: 櫻井美代子 老年看護学
准教授: 草地 潤子 老年看護学・看護教育

教育・研究概要

老年看護学の授業や学内演習では、高齢者の特性や関わり方についての理解を深めるために、視聴覚教材を用いた授業方法を試みている。また老年看護学対象論は、関連科目の進捗に合わせて、従来の前期開講から後期開講に変更した。

平成24年度改正カリキュラムに向けて、3年次と4年次の実習内容の見直しと新たな実習施設の交渉を進めている。

老年看護学領域としての研究活動は、要介護高齢者の下肢の浮腫に関する文献検索とフィールドの開発を始めている。櫻井は、認知症高齢者の家族が抱える心理的課題についての研究を継続している。娘と息子では親に対する反応に違いがあることから、息子介護者へのインタビューを継続している。草地は、ケア提供者の態度と資質に関する研究を進めている。

「点検・評価」

老年看護学領域では、手続き上の問題で准教授が後期からの着任になったこと、また助教が中途退職をしたために、講義と臨地実習指導を非常勤教員の採用で対応したが、教育や研究活動に影響を及ぼしたことは反省すべき点である。研究活動については、これまでの研究成果をまとめることと老年看護学の教育方法に関する研究に取り組みたい。

精 神 看 護 学

教 授：川野 雅資 精神看護学

講 師：石川 純子 精神看護学

教育・研究概要

精神看護学領域では、教育活動として、学生が講義と演習、そして実習が連動するように改善して4年目になり、一応の工夫が完成した。1年次の精神看護学概論では、メンタルヘルスと最新の概念の内容を講義に加えた。2年次の精神看護対象論では、精神科医と講義を分担し、精神障害者への精神医学的な診断と看護について連動して講義をした。精神障害のある人がどんな経験をしたかについての理解を学生がより一層深められるように、昨年に引き続きかがやき会から体験者をゲストスピーカーに招いた。3年次の精神看護方法論では、主に対人関係構築のためのコミュニケーション技術についての演習を行った。更に、前年度から用いている実習病院での実際に近いDVDを活用して、実習のイメージ化と精神障害者への対応の具体的方法を学べる工夫をした。期末試験はペーパーテストではなく、ロールプレイングでの実技試験を行なった。臨地実習に関しては、慈恵医大附属病院の11E病棟をフィールドに加えた。4年次の総合実習では、目的・目標を再検討し、昨年度に引き続き東京武蔵野病院でスーパー救急病棟における精神障害者への看護技術をより深く理解できるよう工夫した。

研究活動は、日本とタイで農村部に暮らす退院した精神障害者の医療と生活についての比較研究、東京都下板橋区・豊島区・練馬区の児童青年精神医療の資源について調査研究、精神看護における基礎教育と専門教育で求めるコミュニケーション技術に関する研究を継続している。特にヒューマンケアリングアプローチとディスコース分析は集中的に行なった。その他、酒害者回復クラブの効果に関する研究、うつ病からの回復者についての研究も行なっている。

「点検・評価」

教育活動・内容の見直しに継続的に取り組み、ある程度完成した内容で教育できた。講義、演習、そして実習では学生からのフィードバックをもとに教授内容を再検討するよう工夫し、ほとんどの目的目標は達成されたといえる。それは効果的な変化があったと評価できる。教育内容の充実を図るために4年を要した。

今後、学生が講義と実習を連動して考えられるようにDVD教材のさらなる活用と実習病院と大学との関係を強化していきたい。また、講義と実習における学生からの評価を適用し続けることはとても重要である。次年度は、3年次の学生に期末試験でSP（模擬患者）を招く予定であり、学生の臨床力をいっそう強化できるように工夫していきたい。

そして、我々の研究活動が教育へ還元できるようにしていく。学外の研究費を獲得することが出来ていないので、この点は継続課題である。

研 究 業 績

I. 原著論文

- 1) 明神一浩, 前川哲弥, 川野雅資. 長期入院患者の退院支援に関する看護師の意識調査－看護師へのインタビュー分析からの課題. 日本地域連携精神看護学研究会誌 2012; 3: 94-100.
- 2) 松浦純平, 一ノ山隆司, 川野雅資. がん患者サロンに対する患者会員の認識と課題. 日本地域連携精神看護学研究会誌 2012; 3: 82-8.
- 3) 寺田祐治, 一ノ山隆司, 舟崎起代子, 上野栄一, 川野雅資. 統合失調症患者の退院準備期におけるセルフマネジメント退院準備用紙の作成から活用まで. 日本地域連携精神看護学研究会誌 2012; 3: 47-53.
- 4) 揚野裕紀子, 中田涼子, 川野雅資. タイ王国の地域連携精神看護－タイにおける精神保健福祉と農村部の現状報告. 日本地域連携精神看護学研究会誌 2012; 3: 39-46.
- 5) 川野雅資, 片山典子, 石川純子. うつ病からの回復に当事者の力を発揮するサイコセラピーの考察. 日本サイコセラピー学会雑誌 2011; 12(1): 69-76.
- 6) 安藤満代, 川野雅資. ストレngthモデルに基づく職業訓練を受けた精神障害者の心理面と必要とされる支援. 聖マリア学院大紀 2012; 3: 55-62.

II. 総 説

- 1) 川野雅資, 片山典子. 世界へ飛ぶ精神科看護師【イギリス】イギリスの「地域精神科看護師」とは. 精神看護 2011; 14(6): 55-8.
- 2) 川野雅資. イギリスにおける地域精神医療の最新動向. インターナショナルナースingleビュー 2011; 34(5): 102-7.

III. 学会発表

- 1) 石川純子, 川野雅資. 慢性に経過する統合失調症患者との看護面接場面の分析－治療的意味に焦点をあてて－. 第31回日本看護科学学会学術集会. 高知, 12月.
- 2) 斎藤祥子, 横山恵子, 石川純子. 精神科急性期病棟

に初回入院する精神疾患患者への家族支援に対する病棟看護師の思い、第42回日本看護学会－精神看護－学術集会、札幌、9月。

- 3) 杉山仁美、横山恵子、石川純子、長期入院を余儀なくされた統合失調症患者の入院へのプロセス－地域で暮らす3人の語りから－、第42回日本看護学会－精神看護－学術集会、札幌、9月。
- 4) 川野雅資、石川純子、片山典子、小張英俊、うつ病からの回復に当事者の力を発揮するサイコセラピーの考察、第12回日本サイコセラピー学会、東京、6月。

IV. 著 書

- 1) 川野雅資編、新看護観察のキーポイントシリーズ：精神科Ⅰ、東京：中央法規出版、2011。
- 2) 川野雅資編、新看護観察のキーポイントシリーズ：精神科Ⅱ、東京：中央法規出版、2011。

小 児 看 護 学

教 授：濱中 喜代 小児看護学

准教授：高橋 衣 小児看護学

教育・研究概要

I. 入院している子どもの教育支援のための教育と医療の連携・協働

－病棟師長・主任看護師への全国調査による検証－
－教師に対する踏査的な調査による検証－

昨年度に引き続き医療と教育の連携に着目して、病棟師長・主任を対象とした医療と教育の連携についての全国調査の結果を分析し、1つは日本育療学会の会長講演のなかで、1つは日本小児看護学会の示説で医療者側の意見として発表した。また今年度は特別支援教育に携わっている関東地域における教師を対象にインタビュー調査を行い、教育者側の意見を分析している。

II. 過去5年間の看護系大学における「看護倫理」教育に関する文献検討

過去5年間の看護系大学における「看護倫理」教育に関する文献検討を行い、今後の課題を明らかにした。学会誌に掲載した。

III. 倫理教育受講に携わる看護師の倫理教育受講経験と「子どもの権利」を擁護する看護の現状－小児看護に携わる看護師に焦点をあてて－

倫理教育受講に携わる看護師の倫理教育受講経験と「子どもの権利」を擁護する看護の現状について、小児看護に携わる看護師を対象として、関東圏内の小児専門病院・大学病院・一般病院6施設において、質問紙による調査研究を行った。現在、分析中である。

「点検・評価」

Iの研究については成果を公表でき、意義があった。また継続的に研究を進めることもできており、今後も実践の場に役立てられるように活かしていきたい。IIの過去5年間の看護系大学における「看護倫理」教育に関する文献検討の学会誌掲載は、今後の倫理教育に関連した研究を継続をする上で意義があった。また、看護倫理の中でも小児看護に焦点を当てた研究としてⅢを継続し研究成果を発表していきたい。

研究ではないが、これまでの手がけてきた小児看

護学のテキストを大改訂し、最近の社会情勢をふまえて更新が図られたことは意義があった。今後は教員や学生の活用状況・評価を受けてさらに良いものにしていきたい。

研究業績

Ⅱ. 総 説

- 1) 濱中喜代. 学術集会会長講演：入院している子どもの教育支援のための教育と医療の連携－病棟師長・主任に対する全国調査の結果からみえてきたこと－. 育療 2011；52：19-23.

Ⅲ. 学会発表

- 1) 濱中喜代, 荒川まりえ, 高橋 衣. 入院している子どもの教育支援のための教育と医療の連携－病棟師長・主任に対する全国調査の自由回答から見えてきたこと－. 日本育療学会第15回学術集会. 東京, 8月.
- 2) 濱中喜代. 入院している子どもの教育支援のための教育と医療の連携－病棟師長・主任に対する全国調査の結果からみえてきたこと－. 日本育療学会第15回学術集会. 東京, 8月.
- 3) 濱中喜代, 中村由美子 (青森県立保健大), 大矢智子 (千葉県保健福祉部), 日沼千尋 (東京女子医科大学), 児玉千代子 (東海大学), 大木伸子 (前東邦大学). 入院している子どもの教育支援のための教育と医療の連携・協働に関する研究－看護師長・主任看護師への全国調査による検証－. 日本小児看護学会第21回学術集会. さいたま, 7月.

Ⅳ. 著 書

- 1) 濱中喜代. 第6章：健康問題/障害の経過の特徴と看護の展開 Ⅱ. 慢性的経過をたどる健康問題/障害と看護, 第7章：小児と家族に起こりやすい・直面しやすい状況と看護 I. 治療処置, 検査を受ける小児と家族, Ⅲ. 活動制限を要する小児と家族, V. 痛みのある小児と看護, X. 家庭で療養している慢性疾患のある小児と家族. 松尾宣武 (国立成育医療センター), 濱中喜代編. 新体系看護学全書：小児看護学2：健康障害をもつ小児の看護. 第4版. 東京：メヂカルフレンド社, 2012. p.426-36, 448-53, 466-73, 482-9, 536-43.
- 2) 濱中喜代. 序章：小児看護を学ぶにあたって, 第1章：小児の特徴, 第2章：小児看護とは. 松尾宣武 (国立成育医療センター), 濱中喜代編. 新体系看護学全書：小児看護学1：小児看護学概論・小児保健. 第3版. 東京：メヂカルフレンド社, 2012. p.1-6, 7-28, 29-54.

V. そ の 他

- 1) 高橋 衣. 過去5年間の看護系大学における「看護倫理」教育に関する文献検討. 東京女医大看会誌. 2011；6(1)：81-9.

母性看護学

教授：茅島 江子 女性の健康と看護ケア
講師：細坂 泰子 周産期ケア、DOHaD、母乳

教育・研究概要

女性のライフスタイル各時期における様々な健康問題について研究し、母性看護における看護援助のあり方について考察した。

I. 妊娠・出産・育児期における性の健康問題の検討

妊娠・出産・育児期における性機能について文献研究し、妊娠期には、つわり、流産の不安、不快症状などから性欲が低下しやすいこと。出産・育児期は、会陰切開による痛み、乳児の養育への集中、育児による疲労などから性欲低下や性交回避が生じやすく、産後の性交再開が遅れる可能性があることなど、妊娠・出産・育児期には、性機能が低下しやすくなることを認めた。妊娠・出産がセックスレスにつながる可能性もあり、これらの時期の性的問題への対応の必要性について提言した。

II. 性器脱患者のペッサリー使用による日常生活への影響の検討

性器脱によりペッサリーを使用している通院中の患者 91 名について、年齢、来院時の主訴、ペッサリー挿入中の症状等をカルテにより調査し、そのうち 7 名についてはインタビュー調査を行った。その結果、ペッサリー挿入により、「子宮下垂感」は 78 % から 16 % に減少したものの、ペッサリー挿入後に「帯下」は 7 % から 27 % に増加し、「出血」「陰壁の発赤・癒着・びらん」「脱出」などの新たな症状の出現、「排尿障害」「尿漏れ」「排便障害」「性生活の困難」などの問題を抱えている人も多かった。これらの患者には、ペッサリー挿入による支障の有無を把握し、支障がある場合にはセルフケアの方法を指導するなど、個別的な対応の必要性が示唆された。

III. 母乳中における細菌学的・免疫学的・栄養学的安全性の検討

搾母乳の保存方法および解凍方法による細菌学的・免疫学的安全性の検討を、産後 1 ヶ月の成人褥婦 20 名を対象に得られた搾母乳および新生児用人工ミルク 2 検体を対象として行なった。母乳中にお

ける細菌は、常温、冷凍、冷蔵の順に多く、保存方法によって細菌数が減少することが明らかになった。免疫学的な検討は IgA およびリパーゼを指標に分析を行い、リパーゼでは、どの解凍方法でも有意に値が減少していた。また栄養学的検討では、グルコース、総蛋白、総脂質、総コレステロールの 4 指標にて分析を行い、総コレステロールでは、電子レンジおよび熱湯解凍で有意に値が減少することが示された。

IV. 妊婦・やせ妊婦の低出生体重児出産予防に向けた母体体重管理モデルの構築

4,765 通を全国の 28 産科施設に入院している褥婦を対象に配布し、2,878 通を分析対象とした。BMI と妊娠期間中の体重増加は負の相関が示された。新生児出生体重との関連では、妊娠週数の他に、BMI < 18.5 および $18.5 \leq \text{BMI} < 25$ では増加体重に正の相関があり、 $25 \leq \text{BMI}$ では年齢と正の相関があった。BMI 別にみた妊娠中の体重増加量との関連では、BMI < 18.5 では増加体重が 5 Kg 未満であると低出生体重児のリスクが高くなることが示唆された。やせ妊婦は、妊娠期間中の母体体重増加量が胎児の発育に重要であることを、妊婦健診や保健指導などで周知していくことが重要であると考えられた。

V. 都内分娩施設における早期新生児の保清方法

東京都内の分娩を取り扱っている 186 施設を対象とし、早期新生児期の保清方法とその理由、手袋使用の有無等のハガキによる質問紙調査を行った。88 施設より回答が得られ（回収率 47.3 %）、日齢 0 日の保清方法は「なし」が最も多く 57.1 %、「沐浴」が 6.0 % であったのに対し、日齢 1 日は「沐浴」が 68.2 % と多かった。保温や皮膚保護の観点からドライテクニック等の保清方法が見直されており、出生直後である日齢 0 日の沐浴は控えられているが、日齢 1 日以降は慣例的に沐浴が行われている実情がわかった。

「点検・評価」

妊娠・出産・育児期の性の健康問題の検討では、これらの時期に性機能が低下することが明らかになった。わが国では性機能に関する研究は少なく、現在、わが国における産後の性機能と関連要因について研究している。この結果は学会発表や論文にて公表する予定である。

性器脱患者のペッサリー使用による日常生活への影響の検討では、ペッサリー使用によって日常生活

や性生活に支障があることが明らかになった。これらの結果は学会発表を通じて公表し、今後、論文にて公表する予定である。

母乳中における細菌学的・免疫学的・栄養学的安全性の検討では、母乳の保存方法および解凍方法による違いが明らかになった。これらの結果は論文や学会発表を通じて公表をおこなった。

妊婦・やせ妊婦の低出生体重児出産予防に向けた母体体重管理モデルの構築研究では、非妊時のBMIによっては、妊娠期の体重増加量が低出生体重児の増加リスクにつながる事が示唆された。この結果についても、学会や論文を通して公表を行っていく予定である。

都内分娩施設における早期新生児の保清方法の調査では、施設で実施されている現状について学会や論文を通して公表していく予定である。また、今後はこれを基礎データとして、関連研究に役立てていきたい。

研究業績

Ⅱ. 総 説

- 1) 茅島江子, 細坂泰子, 室津史子, 西 佳子. 英国の周産期施設と助産師養成大学の訪問記 [その1] 周産期施設編. 助産誌 2011; 65(10): 920-4.
- 2) 茅島江子, 細坂泰子, 室津文子, 西 佳子. 英国の周産期施設と助産師養成大学の訪問記 [その2] 助産師養成大学編. 助産雑誌 2011; 65(11): 1010-6.
- 3) 細坂泰子, 茅島江子, 室津史子, 西 佳子. イギリスに学ぶ周産期看護. ナーシング 2011; 31(11): 108-9.

Ⅲ. 学会発表

- 1) Ohga A¹⁾, Tsumeda K¹⁾, Kayashima K, Inoue R¹⁾, Imoto H¹⁾, Kudo T¹⁾, Konokawa A¹⁾, Watanabe T¹⁾, Endo T¹⁾ (1 Japanese Nursing Association). Career path/ladder for midwives in Japan. 29th ICM Congress. Durban, June. [29th ICM Congress Abstract 2011; 266]
- 2) 茅島江子. 妊娠・出産・育児期における性の健康問題とその対応. 第40回日本女性心身医学会学術集会. 東京, 7月. [女性心身医 2011; 16(1): 62]
- 3) 西野自由理¹⁾, 藤原聡子¹⁾, 清水嘉子¹⁾ (1 長野県立看護大学), 茅島江子. 日中 web 新聞記事による思春期の性情報と性の健康問題の比較. 第31回日本性科学学会学術集会. 東京, 10月. [日性科会誌 2011; 29(2): 154]
- 4) 西 佳子, 佐々木洋子, 三里久美子, 秋元陽子, 山西明美, 田中佳子, 二ノ原福美, 奈良京子, 茅島江子.

性器脱患者のベッサリー使用状況と日常生活への影響. 第31回日本性科学学会学術集会. 東京, 10月. [日性科会誌 2011; 29(2): 151]

- 5) 茅島江子. 性の健康と看護. 第31回日本性科学学会学術集会. 東京, 10月. [日性科会誌 2011; 29(2): 111-4]
- 6) 細坂泰子, 抜田博子, 伊藤文之. 搾母乳の保存方法による免疫学的・栄養学的安全性の構築. 第31回日本看護科学学会学術集会. 高知, 12月.
- 7) 細坂泰子, 抜田博子, 伊藤文之. 搾母乳の保存方法による細菌学的安全性の構築. 第31回日本看護科学学会学術集会. 高知, 12月.

Ⅳ. 著 書

- 1) 茅島江子. ①妊婦の観察 妊婦の観察の意義, 妊婦の観察に必要な基礎技術, 異常の早期発見・治療のために, 特殊な状況にある妊婦の観察. 前原澄子 (京都橘大学) 編. 新看護観察のキーポイントシリーズ: 母性 I. 東京: 中央法規出版, 2011. p.2-4, 5-37, 80-135, 158-62.
- 2) 茅島江子, 河野洋子 (淑徳大学). ①妊婦の観察 生活指導のために. 前原澄子 (京都橘大学) 編. 新看護観察のキーポイントシリーズ: 母性 I. 東京: 中央法規出版, 2011. p.136-57.

Ⅴ. その他

- 1) 茅島江子. [巻頭言] 心身医学的研究の落とし穴. 女性心身医 2011; 16(2): 107.

地 域 看 護 学

准教授：嶋澤 順子 地域看護学
講 師：高橋 郁子 地域看護学
講 師：久保 善子 地域看護学

教育・研究概要

地域看護学では、教員が各々に3つの研究テーマについて取り組んでいる。1つ目は、在宅精神障害者に対する行政保健師の援助方法に関する研究である。大学周辺地域の自治体の保健師の活動を中心に調査を進めており、大学と地域自治体との連携強化及び実践活動の質の向上を目指している。

2つ目は、地域における感染予防を研究テーマとし、現在は高齢者施設で働く介護職員の手指衛生に関する研究を主にしている。

3つ目は、特定健診・特定保健指導に関する行政・産業保健師に必要なコンピテンシー研究および特定保健指導の質の管理システムに関する研究を行っている。

「点検・評価」

各研究については、整理した調査データを調査対象者にフィードバックし、さらに各学会でその成果を発表した。

新カリキュラムの進行に即して、講義内容を新しく設定し、開講している。平成23年度から3年次に新たに開講した実習と4年次に開講している総合実習では、その内容の充実に向けて、実習場所の開拓を進めている。各々の実習終了後には、学生の習得状況を分析し、実習内容の充実に反映できるように取り組んでいる。

研 究 業 績

I. 原著論文

- 1) 原（久保）善子，中谷淳子¹⁾，亀ヶ谷律子（HSプランニング），飯野直子（グローバルヘルスデザイン），森 晃爾¹⁾（¹産業医科大学），石原逸子（日本赤十字九州国際看護大学），特定健診・特定保健指導における保健師のコンピテンシー，日看会論集：地域看護 2011；41：231-4.
- 2) 山下清香（福岡県立大学），嶋野洋子¹⁾，前野有佳里¹⁾（¹九州大学），久保善子，自治体における特定保健指導の質の管理システム導入の意義に関する検討 保健師の認識の変化から，福岡県大看研紀 2012；9(2)：33-42.

III. 学会発表

- 1) Takahashi I. An investigation of nursing students' perception of family. 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, Kobe, July.

在宅看護学

教授：北 素子 在宅看護学
講師：吉田 令子 在宅看護学
講師：遠山 寛子 在宅看護学

教育・研究概要

在宅看護学では、教育研究として、学生が在宅看護学実習をより効果的に進めるためのモバイルラーニング活用に関する研究、在宅看護学における演習授業の効果的なあり方に関する研究を実施するとともに、各教員の関心テーマに沿った研究を進めた。

I. 臨地実習におけるモバイルラーニングシステム活用に関する基礎研究Ⅱ

昨年度に引き続き、学生の臨地実習におけるよりよい学習環境を整えるためにモバイルラーニングの活用を実施してきた。本年度は、学生がいつでも必要な情報を収集できるように一人一人にモバイルパソコンを提供し、実習時間内に自由に活用できるよう環境を整えた。その結果、インターネット上にアクセスでき、いつでも必要な情報収集を行うことと、訪問時間以外の時間に記録作成ができるようになった。また、実習時間を有効活用することが可能になりモバイルラーニングの有効性が明らかになった。今後は、インターネット上では十分に情報を得ることができない専門的な内容に関するコンテンツの開発が必要である。

II. 在宅看護学における効果的演習授業方法の検討に関する研究

従来、在宅看護学の演習では、事例を用いたロールプレイングを実施し、学生の実践力強化を目指した授業展開を行ってきた。昨年度からのカリキュラム改正による在宅看護学の授業時間倍増に伴い、より効果的な在宅看護学演習授業のあり方を検討するため、授業の構成、事例、学生の学習への取り組みについての授業評価を継続して実施した。

2年間の授業評価を通して、学生の在宅看護の演習授業に対する評価は概ね良好であった。事例を用いた演習授業は難しいと感じながらも達成感が得られていること、主体的な学びができていたことが明らかとなり、今後も事例を用いた演習形式の授業を実施していくための具体的な示唆を得ることができた。

III. 要介護高齢者家族の生活安定度尺度（FLSS）を用いた家族支援の妥当性の検証

要介護高齢者家族に対する支援のアウトカムを評価する指標のひとつとして、在宅介護を継続している家族の生活安定度を測定する尺度（家族生活安定度尺度：Family Life Stability Scale：FLSS）の実践現場における家族支援への適用可能性について検証することを目的として研究を進めた。家族によるFLSS得点と、家族への面接による質的データとの対応関係は良好であった。家族の強み、弱み、必要な支援についてFLSSの下位尺度得点から導かれた結果と看護師のアセスメント内容を比較した結果で一貫性が認められた。このことからFLSSは実際の家族状況を捉えうるものであり、支援の方向性を検討する際のひとつの指標として活用しうるものであると考えられた。

IV. 在宅で最期を看取る家族の予期悲嘆へのナラティブアプローチによる介入効果

在宅で最期を看取る家族の予期悲嘆に対してナラティブアプローチにより予期悲嘆がどのように変化をしていくのか介入効果を検討するために、余命6カ月以内と診断された療養者の家族へナラティブアプローチを実施し研究を継続し進めた。

「点検・評価」

在宅看護学領域における臨地実習および演習授業の評価研究から一定の成果を見出すとともに、解決すべき課題も明確になった。これらを元に、教育改善を行ってゆく予定である。また、学生の看護実践能力の育成を目指して、より効果的な教育方法と教育環境について継続検討してゆく必要がある。

各教員が取り組んでいる研究は、どれも在宅看護学領域では重要なテーマであり、これらの研究についても、領域内でサポートしあい、さらに発展的に取り組んでゆく必要がある。

研究業績

II. 総 説

- 1) 北 素子. 臨床に活かすケーススタディ・リサーチ（第3回） ケーススタディ・リサーチをはじめよう 研究デザインとその構成要素. 看実践の科学 2011；36(4)：58-61.
- 2) 北 素子. 臨床に活かすケーススタディ・リサーチ（第4回） ケーススタディ・リサーチにおける理論の役割と研究デザインの質評価. 看実践の科学 2011；36(5)：60-3.

- 3) 北 素子. 臨床に活かすケーススタディ・リサーチ (第5回) ケーススタディ・デザインの4つのタイプ. 看実践の科学 2011; 36(6): 54-7.
- 4) 北 素子. 臨床に活かすケーススタディ・リサーチ (第6回) ケーススタディ・リサーチにむけての準備. 看実践の科学 2011; 36(8): 62-5.
- 5) 北 素子, 伊藤景一¹⁾, 野口真貴子¹⁾ (¹東京女子医科大学), 秋山美紀 (東京医療保健大学), 大金ひろみ (杏林大学). 臨床に活かすケーススタディ・リサーチ (最終回) ケーススタディ・リサーチの報告. 看実践の科学 2012; 37(1): 54-9.

Ⅲ. 学会発表

- 1) Toyama H, Kita M, Kasuga H (Seitoku University). Transforming the family system in at-home terminal stage care. 10th International Family Nursing Comfarence. Kyoto, July.
- 2) 谷津裕子 (日本赤十字看護大学), 北 素子. 質的研究をめぐる諸問題: 質的研究の結果は一般化できない? 日本看護研究学会第37回学術集会. 横浜, 8月. [日看研会誌 2011; 34(3): 53-4]
- 3) 遠山寛子, 北 素子. 在宅看護学実習におけるモバイルラーニングプログラム開発の基礎研究. 日本教育工学会第27回全国大会. 多摩, 9月. [第27回日本教育工学会全国大会講演論文集]
- 4) 吉田令子, 遠山寛子, 北 素子. 在宅看護学演習における授業評価. 第31回日本看護科学学会学術集会. 高知, 12月. [第31回日本看護科学学会学術集会講演集 2011; 334]

Ⅳ. 著 書

- 1) 北 素子. 第4章: 高齢者の健康アセスメントと看護 A. 身体・精神昨日の加齢変化 6. 精神・神経・心理機能の加齢変化. 水谷信子 (前兵庫県立大学), 水野敏子 (東京女子医科大学), 高山成子 (石川県立看護大学), 高崎絹子 (前放送大学 / 元東京医科歯科大学) 編. 最新老年看護学. 改訂版. 東京: 日本看護協会出版会, 2011. p.84-9.